

高き志【こころざし】

地域とともにある

勢いのある学校

No. 5 (R元. 5. 16発行) 文責 校長 福田雅也

少年は手を離せ、目を離すな

少し前の話になりますが、あるテレビ番組を見ていましたら、興味深い内容を伝えていました。それは、よちよち歩きの幼児と一緒に散歩する親が、子どもを「リード」でつないでいることに関する賛否についてでした。

この番組を見ながら、以前「子育て四訓」というものを目にしたことがあったことを思い出しました。それは、つぎのようなものです。

赤子は肌を離すな
幼児は肌を離せ、手を離すな
少年は手を離せ、目を離すな
青年は目を離せ、心を離すな

少し調べてみたら、この言葉は、「山口県に住む教育者の方が、長年の教育経験を踏まえてまとめたもの」だそうです。

「リード」を使って幼児と散歩することについては、様々な意見があるでしょう。海外では、前から使われていたということも聞きます。また、それぞれのご家族にそれぞれの事情もあるでしょう。加えて、商品も売られておりますので、この紙面でその賛否について私見を述べることは控えます。しかし、この「子育て四訓」を参考に「子育て」という面から考えれば、直接手をつないで散歩をしたほうがよいと言えるようです。危険が近づいたときに、親の手の力がぎゅっと強くなり、引き寄せられることで、子どもは愛情を肌で感じたり、危険を避けることの大切さを学んだりすることができるのかもしれない。

この「子育て四訓」の中で、小学生をもつ保護者の方々に当てはまると考えられるのは、「少年は手を離せ、目を離すな」の部分でしょう。この部分だけだとよく分からない気がしますが、前後のつながりから考えれば分かる気がします。「目を離すな」とは、子どもの生活の様子や心の状態を常に分かってあげておくことなのだろうと思います。それを分かってあげた上で、必要などときにはやさしく手を差し伸べてあげることも必要だということなのでしょう。そう考えて、自分の子育てを思い返してみると、とても恥ずかしくなります。仕事を口実に、小学校の授業参観にはほとんど行ったことがなく、子どもが小学校でどんな生活を送っているのかもほとんど知らないというのが実情だったからです。

そんな私に比べ、本校の保護者の方々の子育ては熱心で、先日のPTA総会や授業参観への参加率も高く、学校教育へ多大な協力をいただいていると感じています。朝の登校時間に校区を回ってみると、子供たちが安全に登校できるよう見守っていただいている保護者の方々が多くいらっしゃいました。まさに「手は離していても、目は離していない」と言えるお姿だと思います。

また、学校としましても、保護者の方々が子どもたちから「目を離さない」ことにつながるよう、学校ホームページを活用して、その日の情報をその日のうちにお知らせできるよう努力しております。今後、頑張っている子どもたちの生き生きとした様子をできるだけ多く、そして早くお伝えしていきたいと思っております。ホームページで見た我が子の姿を、ご家庭で褒めていただいたり、話題にいただいたりすることは、間違いなく子どもたちの健やかな成長につながると思っております。